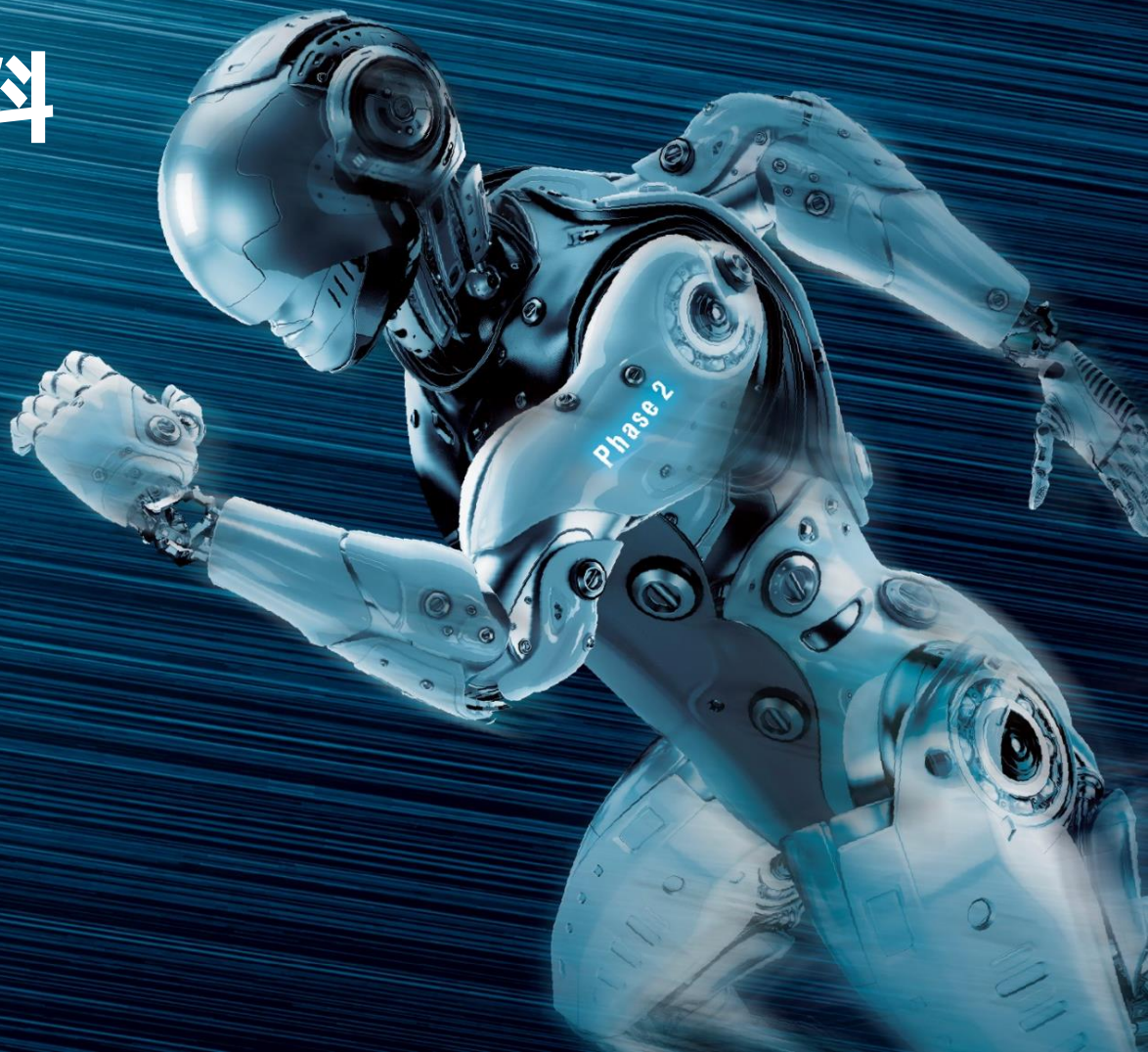


2022年3月期
第2四半期
決算説明会資料

NTN
Make the world **NAMERAKA**



2021年11月4日
NTN 株式会社

- I. 決算のポイントと「DRIVE NTN100」 Phase 2の進捗
- II. 2022年3月期第2四半期決算と通期見通し

前上期比は増収増益、半導体不足の影響等で公表値は未達

上期 ポイント

- ✓ 半導体不足等の影響が拡大し自動車生産台数が減少、販売が急減
- ✓ 費用削減や売価改善を進めるも大幅な規模減少で営業利益は公表未達
- ✓ 為替等による営業外収益もあり当期純損失は公表通り
- ✓ 棚卸資産は、8月、9月の自動車向け需要急減により増加
- ✓ 費用削減、設備投資の抑制を継続、フリー・キャッシュフローは黒字確保

(億円)	2021年3月期		2022年3月期			
	上期実績①	通期実績	上期実績②	YoY ①vs②	上期(公表)③	公表差②vs③
売上高	2,392	5,628	3,058	+666(+28%) 除く為替(+23%)	3,200	-142(-4%) 除く為替(-6%)
営業利益・損失 (率)	-123 (-5.2%)	-31 (-0.6%)	16 0.5%	+139 (+5.7pt)	40 1.3%	-24 (-0.8pt)
経常利益・損失	-134	-57	17	+151	15	+2
親会社株主に帰属する 当期純損失	-144	-116	-10	+134	-10	+0
為替レート 1USD	106.9円	106.0円	109.8円	+2.9円	107円	+2.8円
1EURO	121.2円	123.7円	130.8円	+9.6円	128円	+2.8円
棚卸資産	1,750	1,768	2,015	+247(3月末比)		
設備投資	135	238	81	-54		
フリー・キャッシュフロー	-278	185	11	+289		

②上期決算 事業形態別のポイント

アフターマーケットと産業機械は好調、自動車は2Q YoY減収減益

アフターマーケット

- ✓ 経済活動の活性化に伴い、日本、米州、欧州、アジアで公表比増加
- ✓ 汎用品在庫常備システム「FIRST」全面稼働、販売拡大に注力

産業機械

- ✓ 建設機械、農業機械、変減速機、工作機等で旺盛な需要
- ✓ 値上げ交渉・値引き抑制を進め、事業の収益性が改善

自動車

- ✓ 世界的な半導体不足等の影響で、2Q以降さらに自動車顧客が減産
- ✓ 公表比で上期は売上△300億円の影響
- ✓ 2Q（7月-9月）は前年同期比で減収減益

(億円)	アフターマーケット			産業機械			自動車			全事業		
	2022年3月期			2022年3月期			2022年3月期			2022年3月期		
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期
売上高	270	271	541	307	304	611	989	917	1,906	1,566	1,492	3,058
前年同期差	+74	+38	+112	+81	+62	+142	+492	-81	+411	+647	+19	+666
5月IR（公表）差			+56			+101			-299			-142
営業利益	34	35	69	5	9	14	-22	-44	-66	17	0	16
前年同期差	+27	+19	+46	+13	+14	+27	+74	-8	+66	+114	+26	+139
5月IR（公表）差			+14			+19			-56			-24
営業利益率	12.7%	12.7%	12.7%	1.5%	3.0%	2.3%	-2.3%	-4.8%	-3.5%	1.1%	0.0%	0.5%

③下期のポイントと通期の業績予想

自動車向け需要回復の遅れを織り込み、業績予想を下方修正

下期 ポイント

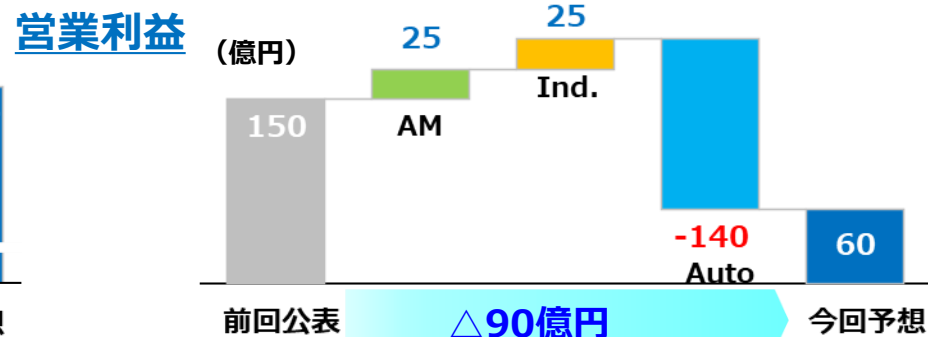
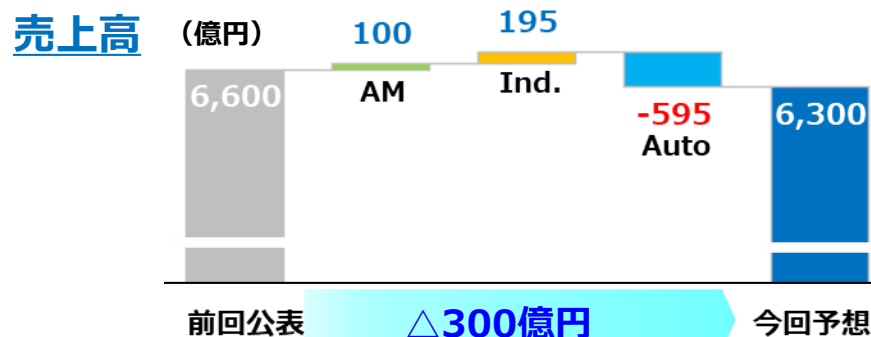
- ✓ 半導体不足等の影響（自動車減産）が下期も継続すると想定
- ✓ 鋼材・海上運賃等の値上げがあるも、売価転嫁、値引き抑制等で対策
- ✓ 棚卸資産は前回公表1,800億円まで削減、資産売却も加えFCF良化

(億円)	2021年3月期	2022年3月期				
	通期実績	上期実績	下期予想	通期予想	通期(前回公表)	前回公表差
売上高	5,628	3,058	3,242	6,300	6,600	-300(-5%)
営業利益・損失 (率)	-31 (-0.6%)	16 0.5%	44 1.4%	60 1.0%	150 2.3%	-90 (-1.3pt)
経常利益・損失	-57	17	33	50	100	-50
親会社株主に帰属する 当期純利益・損失	-116	-10	31	20	50	-30
為替レート 1USD	106.0円	109.8円	110円	110円	107円	+3円
1EURO	123.7円	130.8円	130円	130円	128円	+2円
棚卸資産	1,768	2,015	1,800	1,800	1,800	0
設備投資	238	81	139	220	220	0
フリー・キャッシュフロー	185	11	59	70	55	+15

④事業形態別の業績予想

補修・産業機械は好調、自動車は減産を織り込み下方修正

		2022年3月期								
		今回修正			前回公表					
(億円)		上期実績	下期予想	通期予想	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	アフターマーケット	541	569	1,110	485	525	1,010			
	産業機械	611	634	1,245	510	540	1,050			
	自動車	1,906	2,039	3,945	2,205	2,335	4,540			
	合計	3,058	3,242	6,300	3,200	3,400	6,600			
営業利益(率)	アフターマーケット	69 12.7%	76 13.4%	145 13.1%	55 11.3%	65 12.4%	120 11.9%			
	産業機械	14 2.3%	21 3.3%	35 2.8%	-5 -1.0%	15 2.8%	10 1.0%			
	自動車	-66 -3.5%	-54 -2.6%	-120 -3.0%	-10 -0.5%	30 1.3%	20 0.4%			
	合計	16 0.5%	44 1.4%	60 1.0%	40 1.3%	110 3.2%	150 2.3%			



下期注力

- 1 自動車のリソースを活用し補修向け販売拡大
- 2 不採算ビジネスの縮小・撤退、欧米事業の立て直し
- 3 鋼材価格と物流費用の売価転嫁
- 4 調達改革による比例費削減

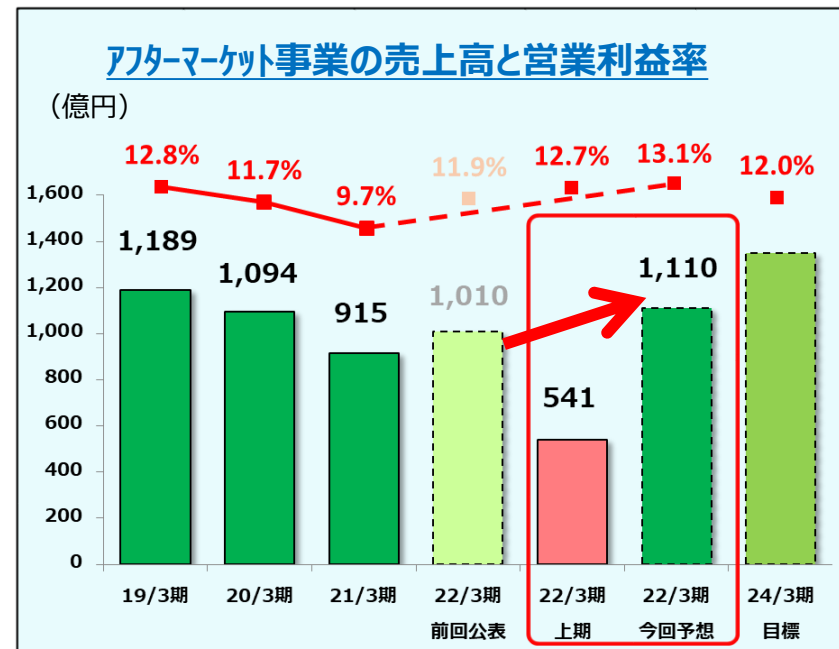
⑤アフターマーケット事業の状況

供給力の強化により、補修需要の回復を確実に販売に繋げる



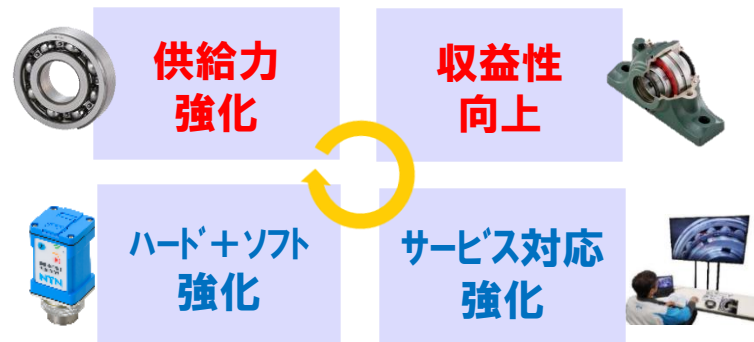
1 供給力の強化

- ✓ 汎用品在庫常備システム「FIRST」が稼働（4月）
- ✓ 国際物流を含むSCMの混乱があるものの、30ヶ国からの需要回復に対応して供給を拡大し、売上高は着実に増加
- ✓ システム改修を含めた物流整流化と補修向け在庫の拡充（生産増強）を推進
- ✓ 海外工場の生産能力や国内自動車向け設備・人員を活用し、補修向け供給力を強化



2 収益性向上

- ✓ 鋼材価格、物流費高騰の影響を受けて定価表の改定による値上げを推進中



⑥産業機械事業の状況

旺盛な需要が継続、生産対応と不採算ビジネス縮小・撤退を推進

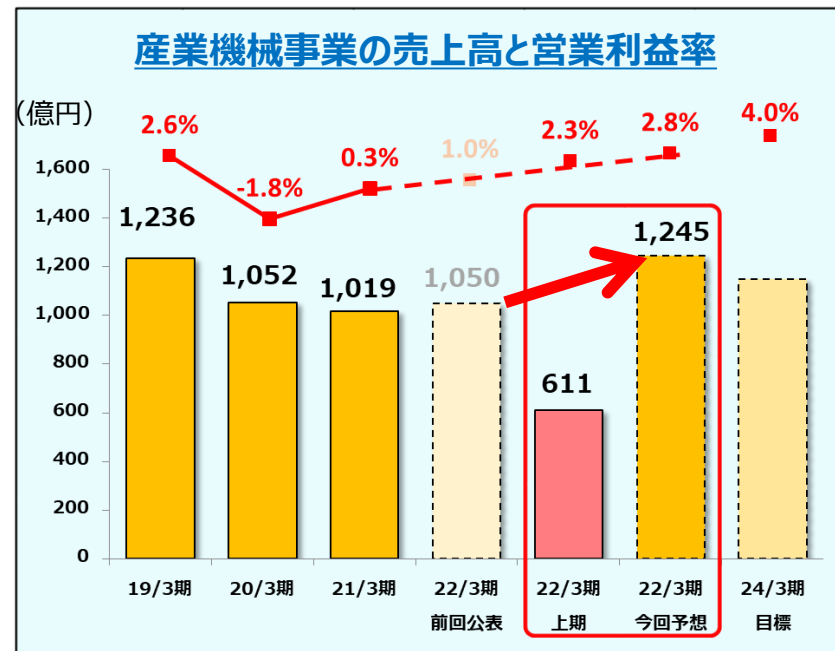


1 生産対応

- ✓ 建設機械や農業機械、変減速機、工作機械等
主要業種の需要急増に生産対応。人員の適正
配置と生産改革によるコスト抑制
- ✓ 風力は中国向け需要が一時的に減少も、来期
以降のさらなる増産に向けて製造設備を増強し、
外径φ3m超の超大形ベアリングに対応

2 収益性改善

- ✓ 不採算ビジネス縮小・撤退、赤字型番の値上げを
推進し、今期から利益向上の効果が発現
(航空機、建設機械、変減速機、他)
- ✓ 鋼材・物流費用の売価転嫁も並行して実施
- ✓ 鉄道車両向け等のタスクフォース活動で原価低減
項目を創出。顧客承認の取得活動を推進



つくる
新領域



Robots
「i-WRIST®」



CMS

「Wind Doctor®」

育てる
事業拡大



Gearbox



Wind T.



Machine Tool



Rolling stock

稼ぐ
収益確保



Construct.



Agri.



Aero space

⑦自動車事業の状況

半導体不足等の影響で需要が大幅に減少、収益性改善強化



1 半導体不足等の影響

- ✓ 半導体需給のひっ迫、ワイヤーハーネス等の供給問題（アジア地域ロックダウン）で生産台数減少

	5月IR	最新	※Source IHS
上期	4,124万台	→ 3,525万台	(△15%)
下期	4,514万台	→ 3,865万台	(△14%)

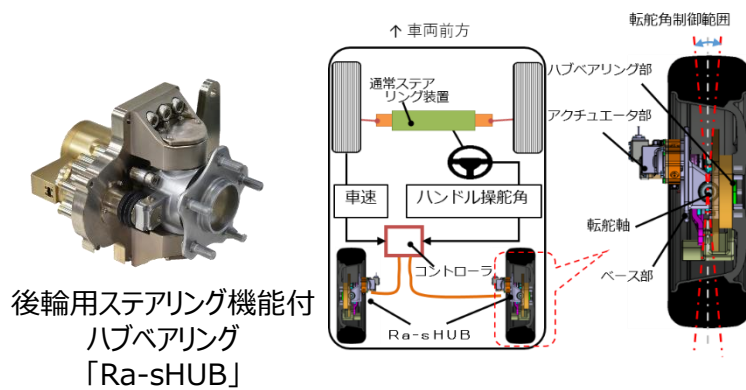
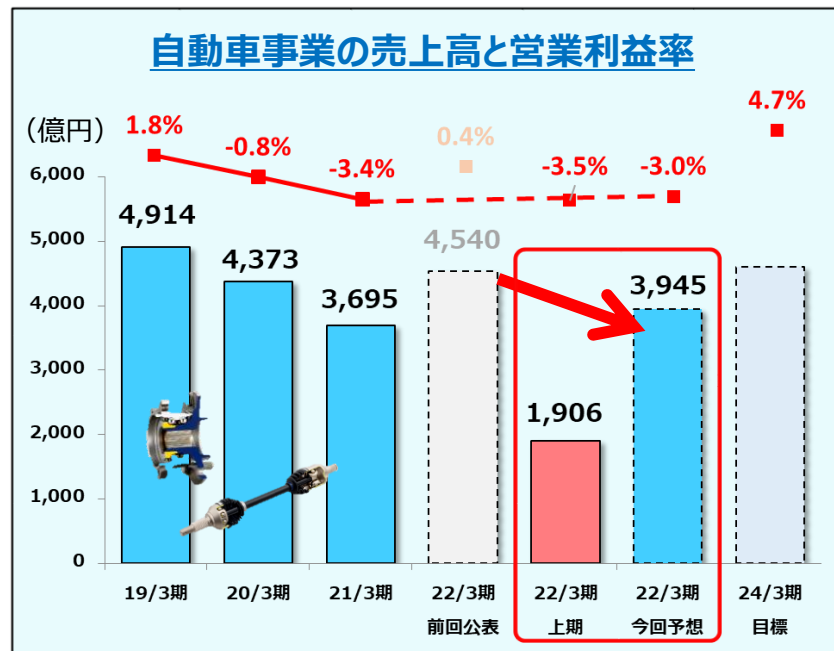
2 収益性改善

外部要因による利益減を最小化（下期）

- ✓ 値引き抑制、鋼材・物流費用の売価転嫁の推進
- ✓ 北米、東南アジアでの高利益・純増案件の円滑な立上げによる確実な利益増の獲得
- ✓ 需要減に伴う生産余力・人員のAM/産機への活用

需要回復期の再成長に向けた体質改善（中期）

- ✓ 不採算事業の再編と調達改革（比例費原低）による損益分岐点引き下げ
- ✓ EV・電動化向け高機能商品の開発、投入の加速



⑧ ESG経営の取り組み

ESGに関する取り組みの詳細は統合報告書「NTNレポート」を参照ください
<https://www.ntn.co.jp/japan/csr/ntnreport.html>

NTNは企業理念の実践を通じて「なめらかな社会」の実現を目指しています。
今期は**マテリアリティ（重要課題）に関する目標（KGI）とKPIの設定**を推進。
5月に**TCFD提言に賛同表明**、気候変動が事業にもたらす**リスクと機会のシナリオ分析**を実施。

企業理念

「新しい技術の創造と新商品の開発を通じて国際社会に貢献する」

マテリアリティ13項目

当社の独創的技術の創造を通じて社会に貢献
(ポジティブインパクトの強化)

- 環境** (1) エネルギーロスの低減
- 環境** (2) 自然エネルギーを利用した持続可能な社会の実現
- 社会** (3) 安全と快適の提供

グローバル企業にふさわしい経営・企業形態の形成
(ネガティブインパクトの低減)

- 環境** (4) 気候変動への対応
- 環境** (5) 資源循環・汚染防止
- 環境** (6) 製品・サービスの信頼性向上
- 社会** (7) 環境・社会を重視した調達活動
- 社会** (8) 人権の尊重
- 社会** (9) 労働安全衛生の推進
- 社会** (10) 人材育成
- 社会** (11) ダイバーシティの推進
- ガバナンス** (12) コンプライアンスの徹底
- ガバナンス** (13) ガバナンスの強化

目標 (KGI) ・ KPIの設定を推進

「なめらかな社会」※
の実現

<マテリアリティ> 気候変動関連

TCFD

TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

2021年5月
TCFD提言に賛同表明

気候変動が事業にもたらすリスクと機会を分析し
経営戦略に反映させるとともに、情報を開示（2022年予定）

**機会
(価値創造)**



N³ (Eヌキューブ)



太陽光発電（上海市）



小型軽量・高効率

当社製品・サービスによる
脱炭素社会への貢献



Ra-sHUB



ULTAGE

**リスク
(課題解決)**

事業における脱炭素の取り組み
カーボンニュートラル

分析結果を
経営戦略・事業活動に展開

※人と自然が調和し、人々が安心して豊かに暮らせる社会

ご参考：中期計画3年間の事業運営方針（中期計画資料の抜粋）

※中期経営計画の詳細はホームページを参照ください：<https://www.ntn.co.jp/japan/investors/mtermplan.html>

DRIVE NTN100

2027年度
の姿

基本方針

新しい100年に向けて、事業構造の変革を加速

基本戦略

Digitalization（最新デジタル技術）x **R**esources（NTNが培った経営資源）
Innovation（革新的な技術・商品・サービスの開発）
Variable cost reformation（調達改革）
Efficiency improvement（生産性と品質の世界一同時達成/資産効率の向上）

売上高
成長率
各地域のGDP
成長率+α

事業運営
方針

Phase 1
(2018年度～2019年度)

危機対応期間
(2020年度)

Phase 2
(2021年度～2023年度)

Phase 3
(2024年度～)

既存の商品・事業の利益率
と投資効率を追求

従業員の健康と
安全の確保

既存の商品・事業の利益率
と投資効率を追求

新事業と
基盤事業の
領域を構築

新たな事業・商品を
創出して事業化

事業資金の確保
及び事業継続

新事業の峻別と経営資源の
配分の見直し

・つくる
・育てる
・稼ぐ

事業構造の変革を支える
経営体制の構築

将来の成長に
向けた準備

コーポレートガバナンスの強化
(経営基盤の再構築)

営業
利益率
10%以上

総資産
回転率
1.0回転以上

為替
感応度
半減

Phase 1
財務体質の
急激な悪化

外部環境
EV化、電動化、DXの再加速
COVID-19（不確実性）
安全重視・働き方の変容

Phase 2
1. 3年間でNTN再生に注力
(BSの立て直し、CFの改善)
2. 将来の成長に向けた種まき

- I. 決算のポイントと「DRIVE NTN100」 Phase 2の進捗
- II. 2022年3月期第2四半期決算と通期見通し

★2022年3月期 第2四半期決算のポイント

1. 連結損益
2. 地域別売上高
3. 事業形態別売上高・営業利益
4. 事業形態別業績（四半期推移）
5. 営業利益増減
6. 所在地別 売上高・営業利益
7. 棚卸資産
8. 設備投資・減価償却費
9. 有利子負債
10. キャッシュ・フロー
11. 2022年3月期下期 重要施策
12. 再生に向けた損益分岐点の引き下げ

2022年3月期 第2四半期(4-9月)の実績

◇売上高: **3,058億円**

・前年同期比**+666億円**の増収(除く為替**+541億円**)

◇営業利益: **16億円**

・前年同期比**+139億円**の増益(除く為替**+121億円**)

◇経常利益: **17億円**

・前年同期比**+151億円**の増益(除く為替**+133億円**)

◇親会社株主に帰属する四半期純利益: **△10億円**

・前年同期比**+134億円**の増益(除く為替**+121億円**)

◇フリーキャッシュ・フロー: **11億円**、前年同期比**+289億円**の増加

2022年3月期の業績予想を修正

- ◇売上高： **6,300億円**、前回公表から6,600億円から**△300億円**
- ◇営業利益： **60億円**、前回公表150億円から**△90億円**
- ◇特別損益： **30億円**、前回公表0億円から**+30億円**
- ◇親会社株主に帰属する当期純利益：
20億円、前回公表50億円から**△30億円**
- ◇配当については、年間**0円(無配)**を予定
- ◇下期見通し為替レート：1US\$=**110円**(前回公表107円)、
1EURO=**130円**(同128円)

1. 連結損益

単位：億円

	'21年3月期			'22年3月期			増減		
	上期実績	下期実績	通期実績	上期実績	下期見通し	通期見通し	対前年同期 ②-①		
	①			②			合計	除く為替	為替
売上高	2,392	3,236	5,628	3,058	3,242	6,300	666	541	125
営業利益	△ 123	92	△ 31	16	44	60	139	121	18
(営業利益率)	(△5.2%)	(2.8%)	(△0.6%)	(0.5%)	(1.4%)	(1.0%)	(5.7%)		
経常利益	△ 134	77	△ 57	17	33	50	151	133	18
特別損益	5	40	45	△ 1	31	30	△ 6	△ 6	-
親会社株主に 帰属する当期純利益	△ 144	28	△ 116	△ 10	30	20	134	121	13
為替 US\$	106.8	105.2	106.0	109.8	110.0	109.9	2.9		
レ - ト EURO	121.2	126.1	123.7	130.8	130.0	130.4	9.6		

2. 地域別売上高

単位：億円

	'21年3月期			'22年3月期			増減		
	上期実績 ①	下期実績	通期実績	上期実績 ②	下期見通し	通期見通し	対前年同期 ②-①		
							合計	除く為替	為替
日本	690	938	1,628	864	921	1,785	173	173	0
米州	608	836	1,444	853	942	1,795	245	213	32
欧州	482	690	1,172	621	599	1,220	139	92	46
アジア他	611	772	1,384	720	780	1,500	109	62	47
合計	2,392	3,236	5,628	3,058	3,242	6,300	666	541	125

3. 事業形態別売上高・営業利益

<事業形態別売上高>

単位：億円

	'21年3月期			'22年3月期			増減		
	上期実績	下期実績	通期実績	上期実績	下期見通し	通期見通し	対前年同期 ②-①		
	①			②			合計	除く為替	為替
補修	429	486	915	541	569	1,110	112	89	23
産業機械	469	550	1,019	611	634	1,245	142	120	22
自動車	1,495	2,200	3,695	1,906	2,039	3,945	411	332	80
合計	2,392	3,236	5,628	3,058	3,242	6,300	666	541	125

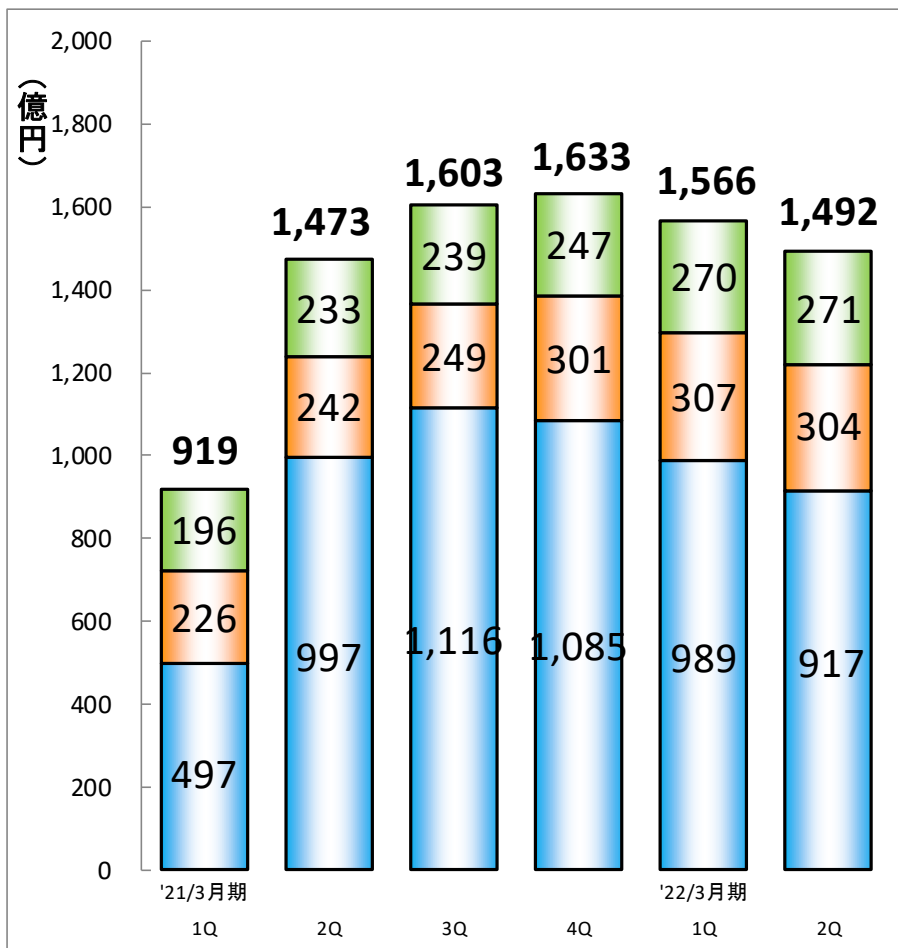
<事業形態別営業利益>

	'21年3月期			'22年3月期			増減
	上期実績	下期実績	通期実績	上期実績	下期見通し	通期見通し	対前年同期 ②-①
	①			②			
補修	23	66	89	69	76	145	46
産業機械	△ 14	17	4	14	21	35	27
自動車	△ 132	8	△ 124	△ 66	△ 54	△ 120	66
合計	△ 123	92	△ 31	16	44	60	139

4. 事業形態別業績(四半期推移)

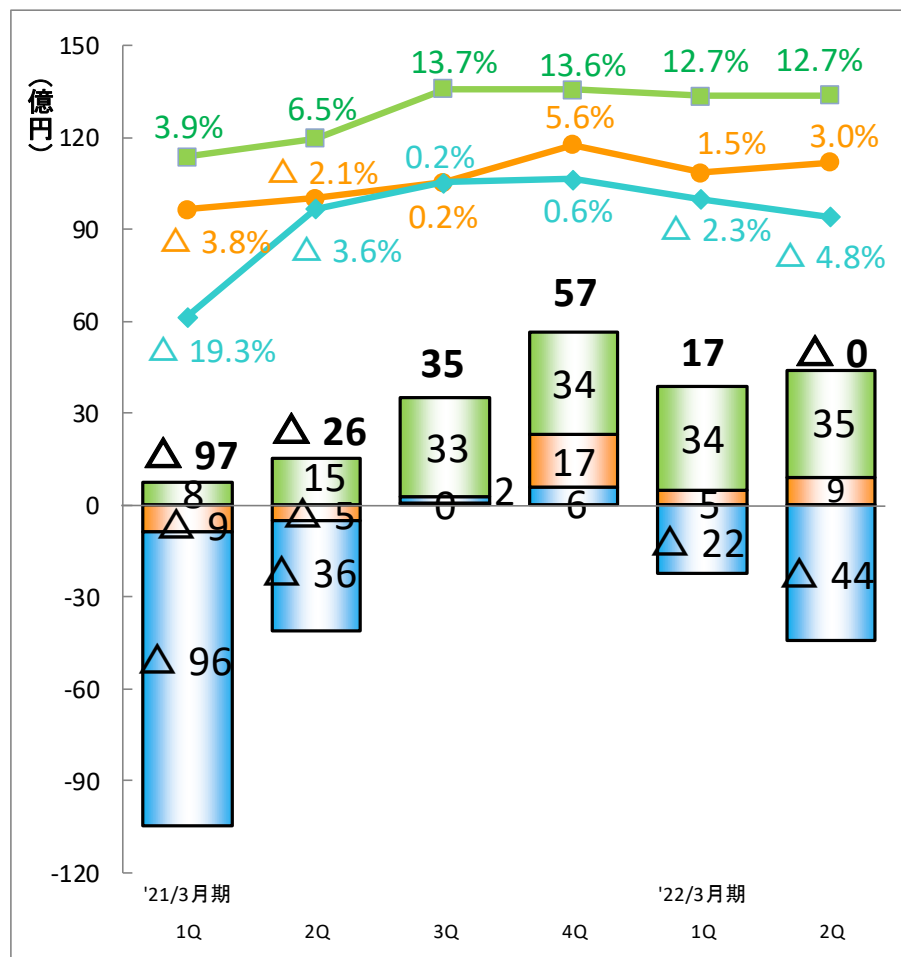
売上高

自動車 産業機械 補修



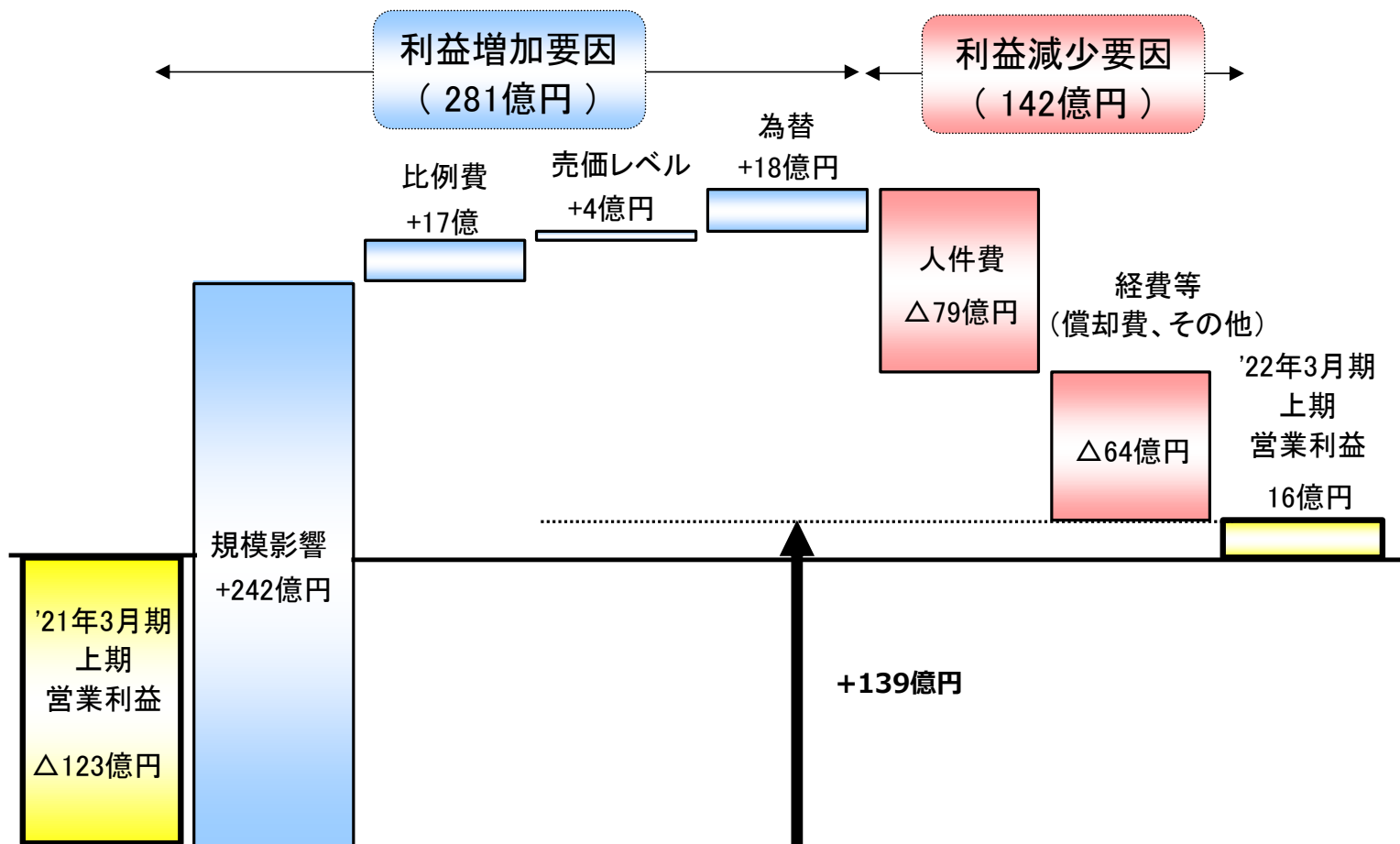
営業利益/営業利益率

自動車 産業機械 補修



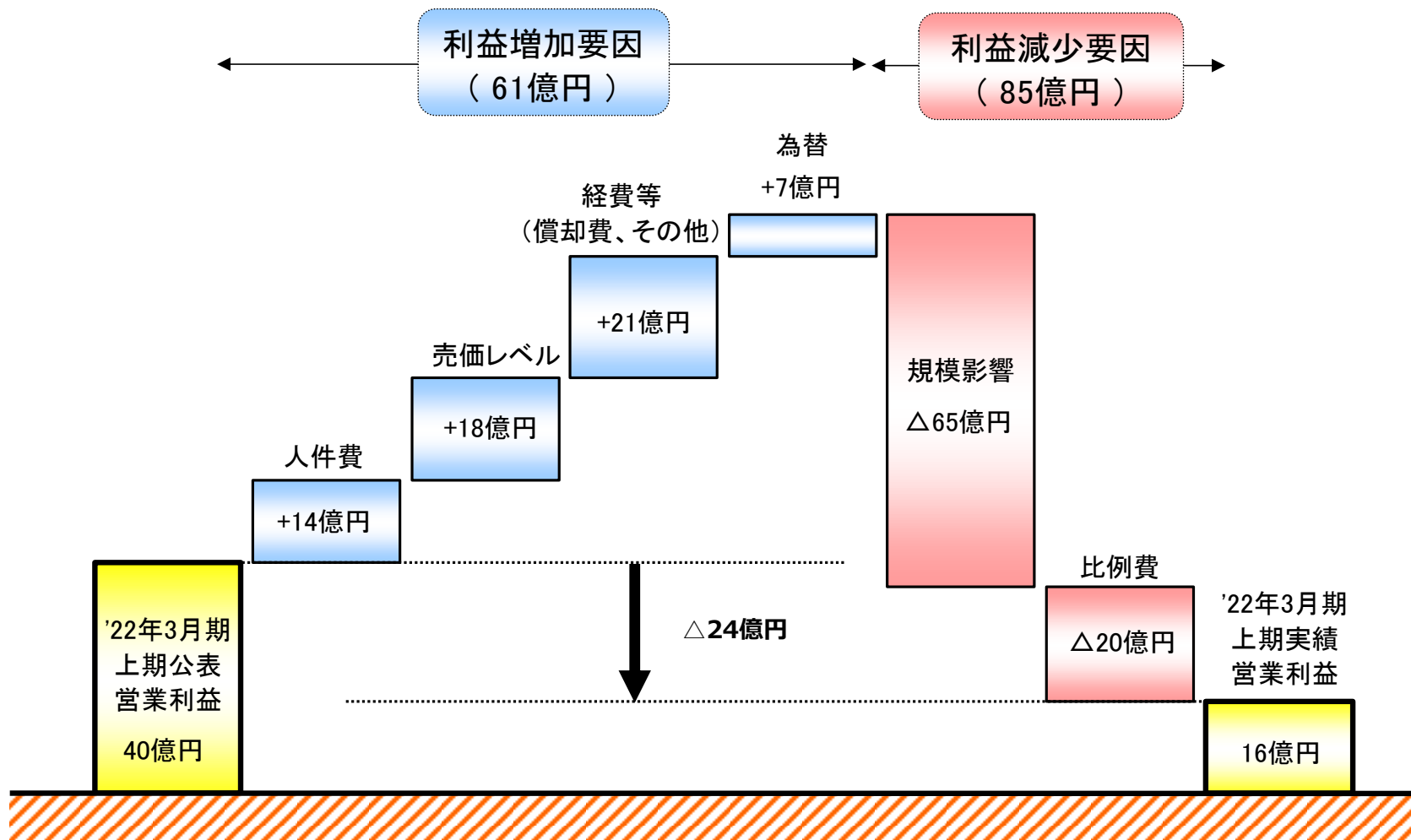
5-1. 営業利益増減

’21年3月期 上期 <実績>
vs ’22年3月期 上期 <実績>



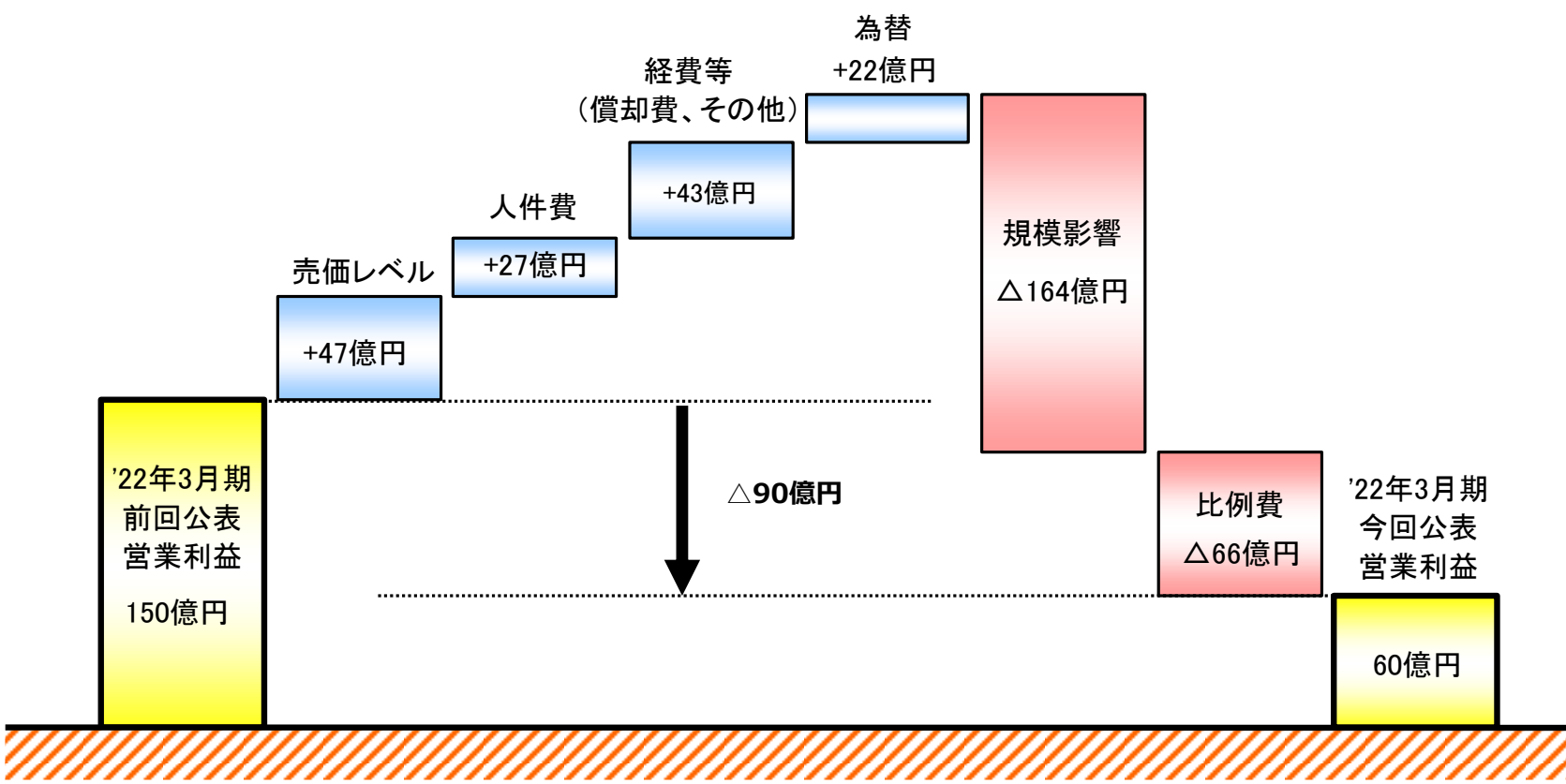
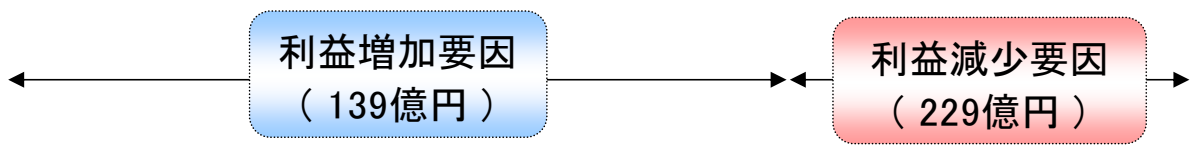
5-2. 営業利益増減

'22年3月期 上期 < 公表 >
vs '22年3月期 上期 < 実績 >



5-3. 営業利益増減

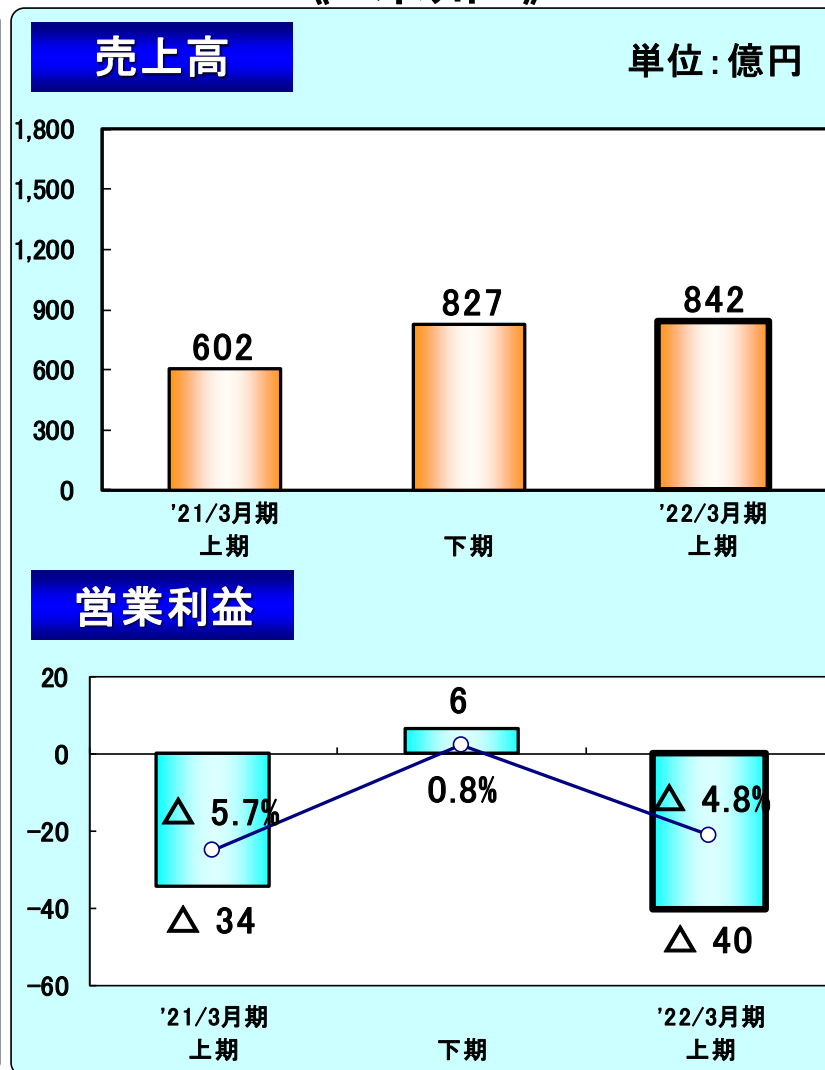
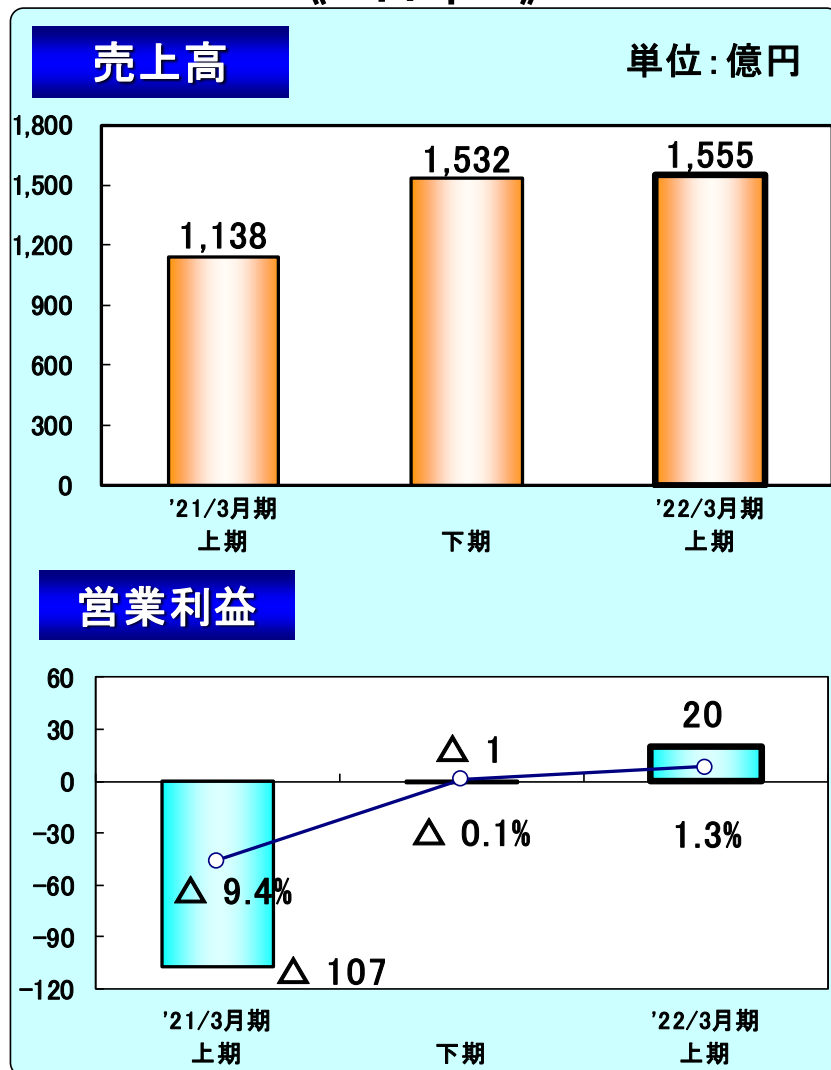
'22年3月期 通期 < 前回公表 >
vs '22年3月期 通期 < 今回公表 >



6-1. 所在地別 売上高・営業利益 (日本・米州)

《 日本 》

《 米州 》



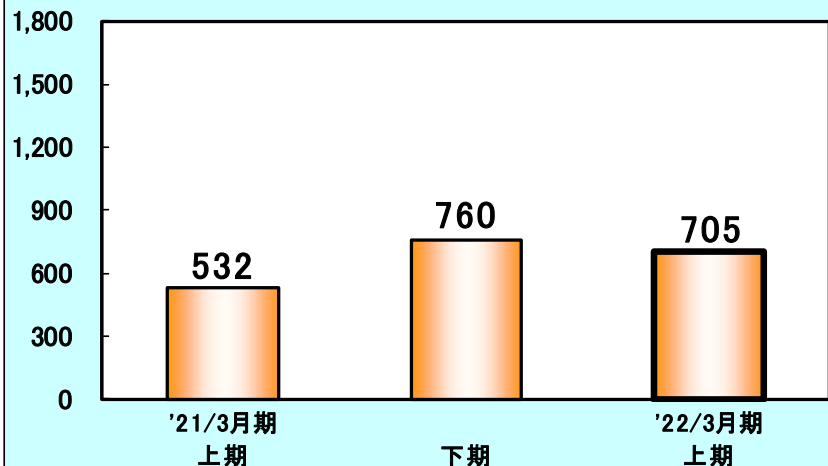
6-2. 所在地別 売上高・営業利益 (欧州・アジア他)

《 欧州 》

《 アジア他 》

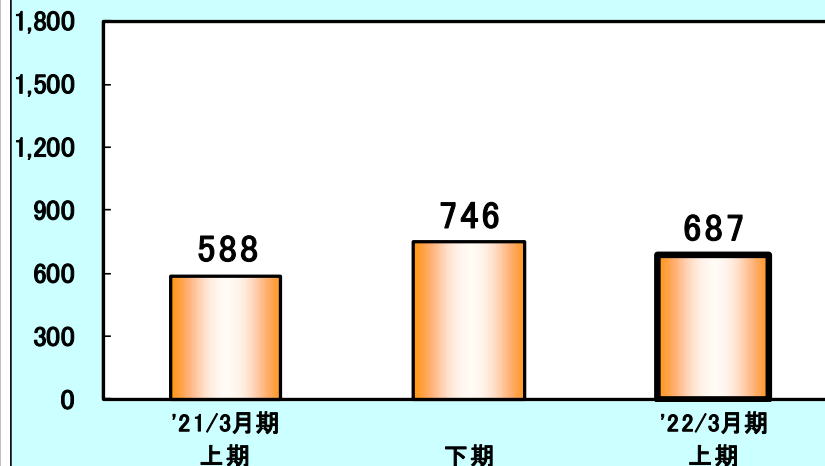
売上高

単位：億円

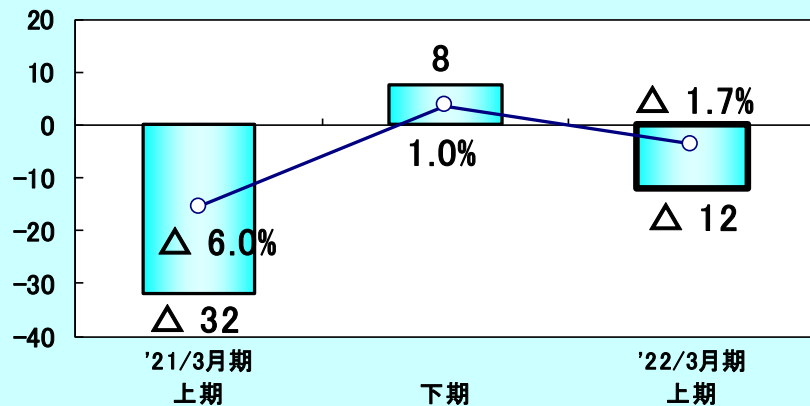


売上高

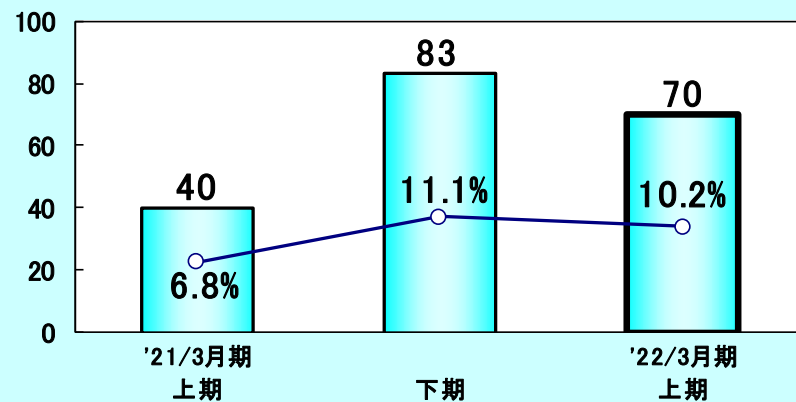
単位：億円



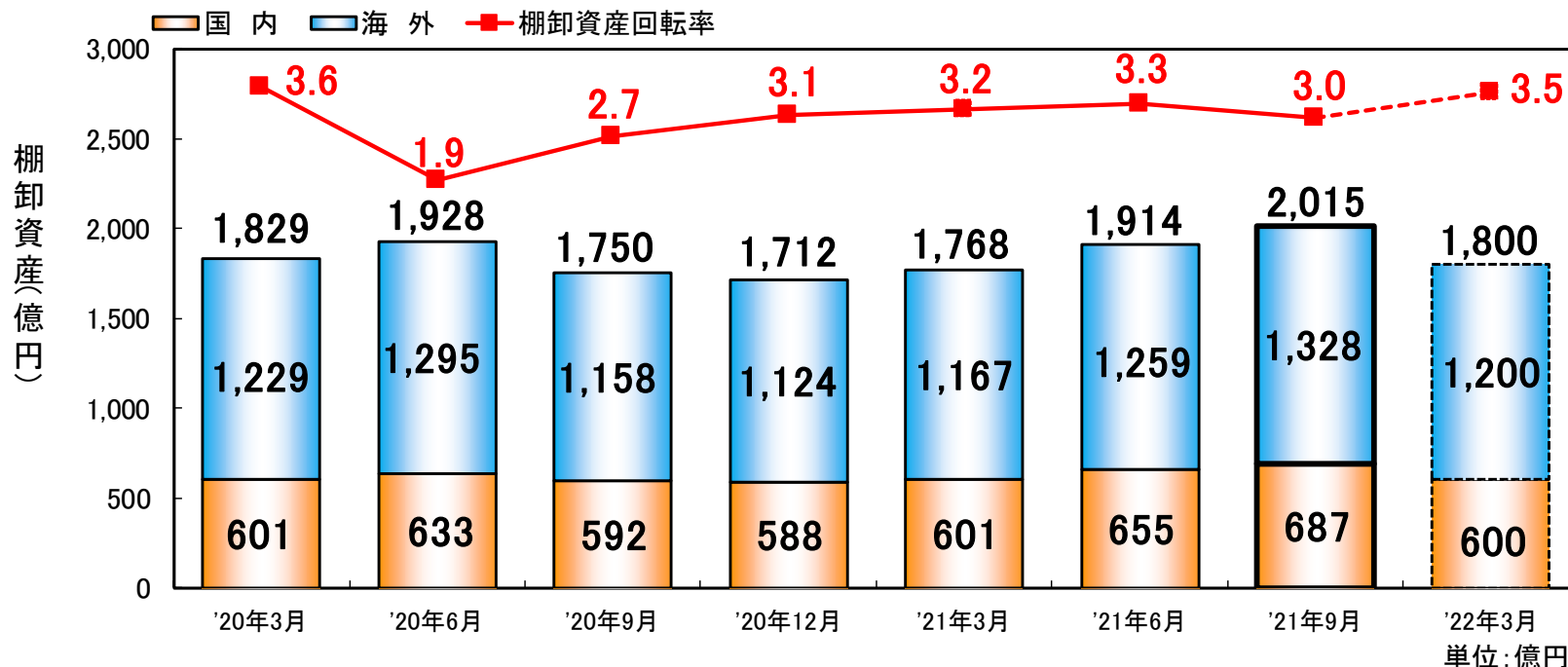
営業利益



営業利益



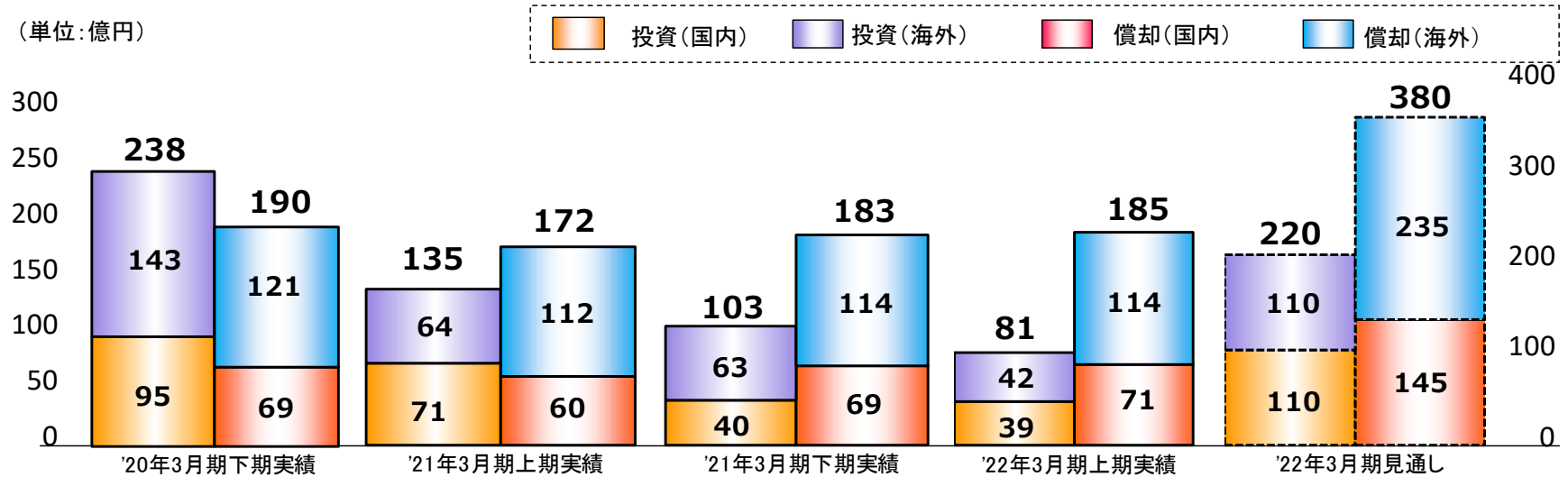
7. 棚卸資産



	'20年3月 実績	'20年6月 実績	'20年9月 実績	'20年12月 実績	'21年3月 実績	'21年6月 実績	'21年9月 実績	'22年3月 見通し
棚卸資産	1,829	1,928	1,750	1,712	1,768	1,914	2,015	1,800
（海外）	(1,229)	(1,295)	(1,158)	(1,124)	(1,167)	(1,259)	(1,328)	(1,200)
（国内）	(601)	(633)	(592)	(588)	(601)	(655)	(687)	(600)
棚卸資産回転率(回)	3.6回	1.9回	2.7回	3.1回	3.2回	3.3回	3.0回	3.5回

8. 設備投資・減価償却費

(単位:億円)



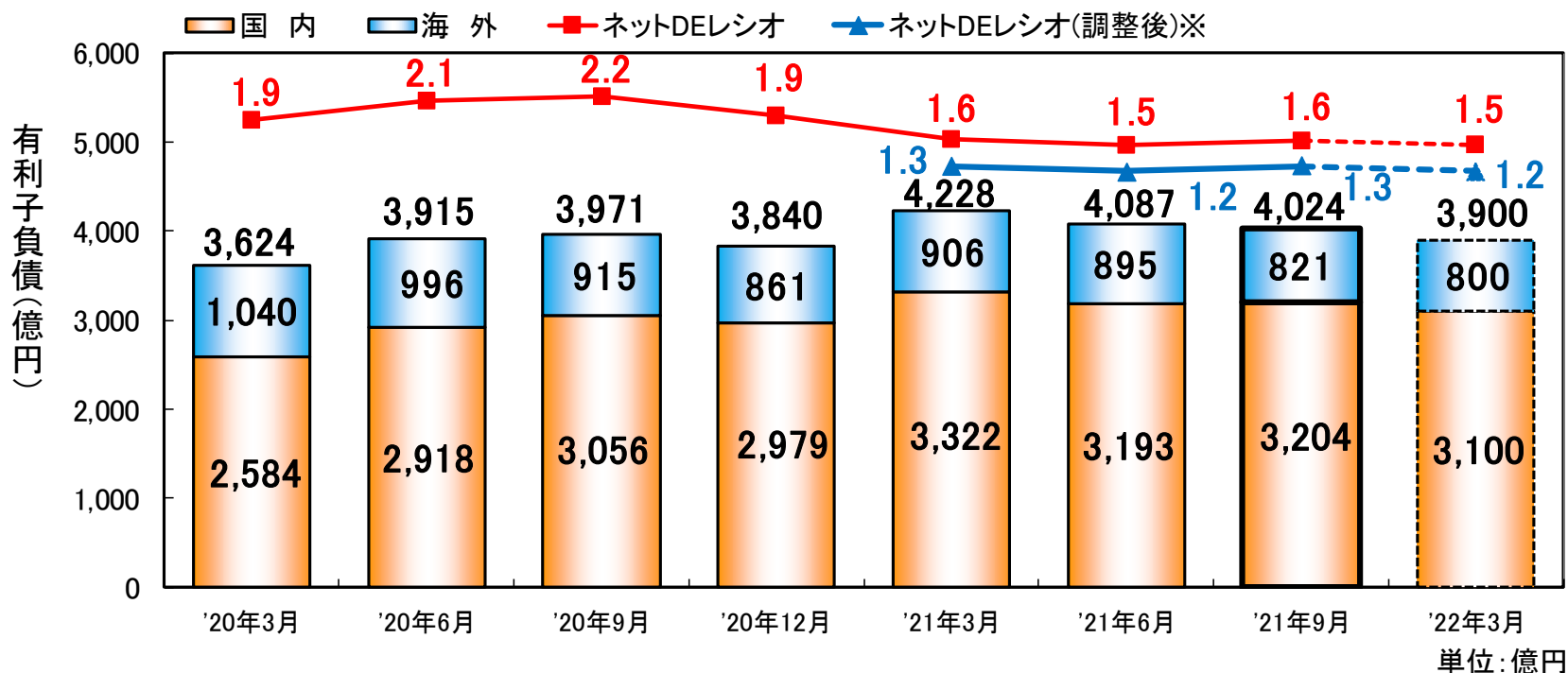
単位:億円

	'20年3月期 下期実績	'21年3月期		'22年3月期 上期実績②	増減 ②-①	'22年3月期 通期見通し
		上期実績①	下期実績			
設備投資	238	135	103	※ 81	△54	220
(海外)	(143)	(64)	(63)	(42)	(△22)	(110)
(国内)	(95)	(71)	(40)	(39)	(△33)	(110)

※他に、無形固定資産投資額があります。'22年3月期 上期実績:28億円 '22年3月期 通期見通し:70億円

	'20年3月期 下期実績	'21年3月期		'22年3月期 上期実績②	増減 ②-①	'22年3月期 通期見通し
		上期実績①	下期実績			
減価償却費	190	172	183	185	13	380
(海外)	(121)	(112)	(114)	(114)	(2)	(235)
(国内)	(69)	(60)	(69)	(71)	(11)	(145)

9. 有利子負債

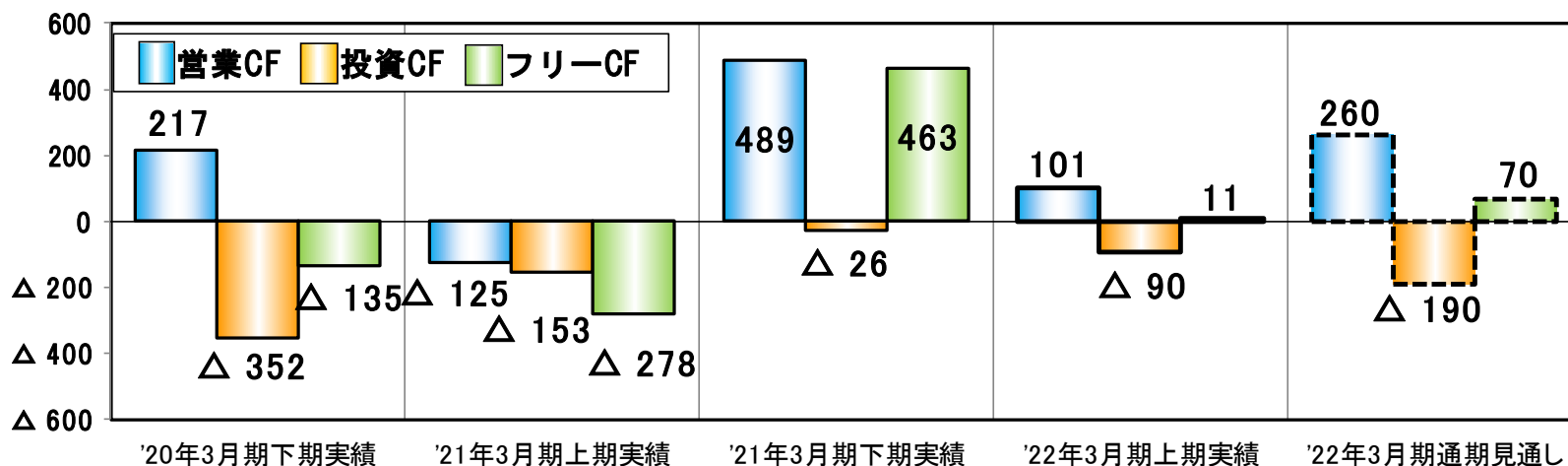


	'20年3月 実績	'20年6月 実績	'20年9月 実績	'20年12月 実績	'21年3月 実績	'21年6月 実績	'21年9月 実績	'22年3月 見通し
有利子負債	3,624	3,915	3,971	3,840	4,228	4,087	4,024	3,900
(海外)	(1,040)	(996)	(915)	(861)	(906)	(895)	(821)	(800)
(国内)	(2,584)	(2,918)	(3,056)	(2,979)	(3,322)	(3,193)	(3,204)	(3,100)
ネット有利子負債	2,913	3,113	3,174	2,924	2,756	2,680	2,769	2,680

※公募ハイブリッド社債の資本性認定部分(50%)を調整。

10. キャッシュ・フロー

単位: 億円	'20年3月期 下期実績	'21年3月期		'22年3月期 上期実績②	②-①	'22年3月期 通期見通し
		上期実績①	下期実績			
I. 営業活動による キャッシュ・フロー	217	△125	489	101	226	260
II. 投資活動による キャッシュ・フロー	△352	△153	△26	△90	63	△190
I + II. フリーキャッシュ・フロー	△135	△278	463	11	289	70
III. 財務活動による キャッシュ・フロー	97	360	187	△228	△588	△325
IV. 現金及び現金同等物 に係る換算差額等	△6	3	26	△1	△4	0
V. 現金及び現金同等物の 増減額	△44	85	675	△218	△303	△255



1 1. 2022年3月期下期 重要施策

第1四半期決算時の想定に対し、**更なる規模減や鋼材価格上昇**がある中、**計画以上の補修販売の上積み**と共に以下の施策を推進する

◇利益体質の改善と営業CFの最大化

- ・規模減に応じた**固定費の削減**
- ・**鋼材価格上昇を売価転嫁他**により吸収
- ・**不採算型番の収益改善と撤退の加速**
- ・上期で増加した**棚卸資産の削減**

◇フリーCFの黒字維持

- ・**償却の範囲内での投資と更なる資産売却**の推進

◇最終損益の黒字化

⇒ネットD/Eレシオの目標達成(' 22年3月末1.5以下)

12-1. 再生に向けた損益分岐点の引き下げ

'22年3月期 通期 < 今回公表 > vs < 前回公表 >

単位：億円

・レートA

前回公表為替レート

1US\$=107円

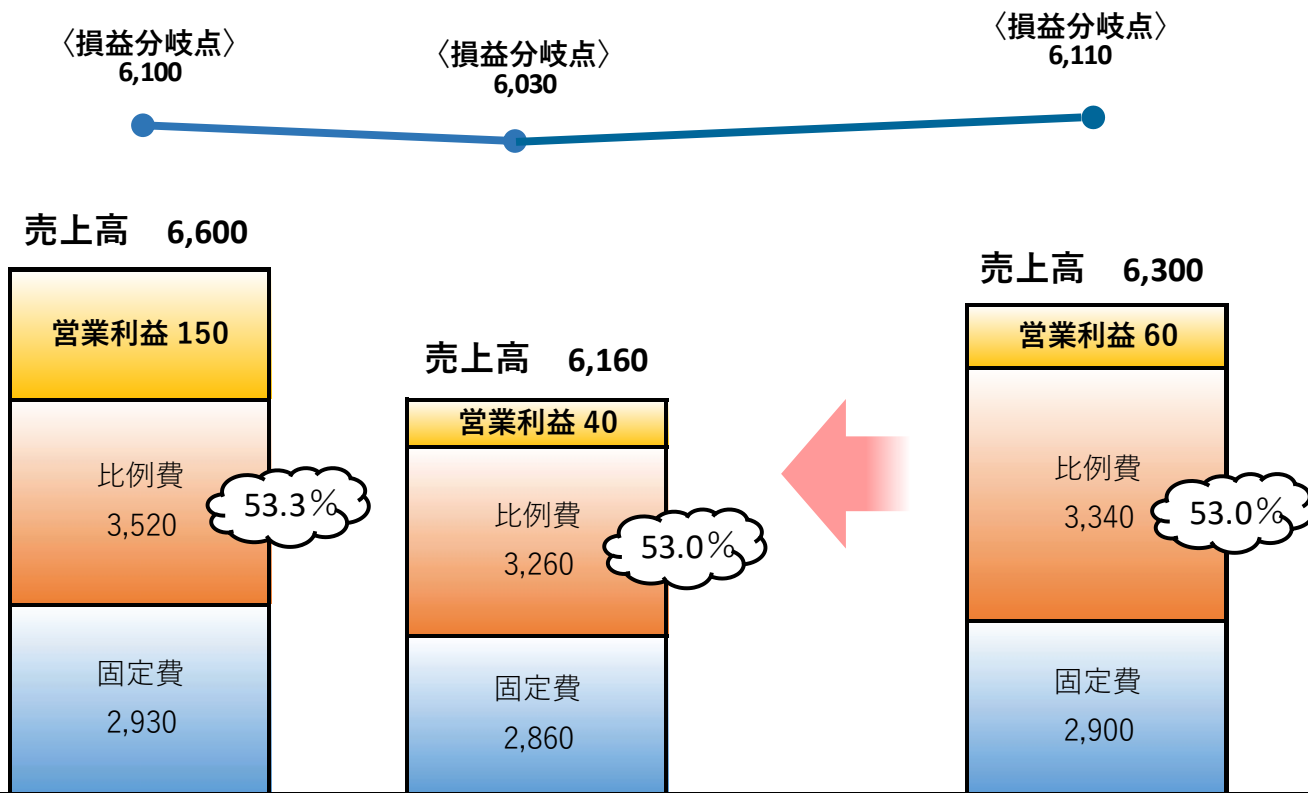
1EURO=128円

・レートB

今回公表為替レート

1US\$=109.9円

1EURO=130.4円



'22年3月期
前回公表

為替レートA

'22年3月期
今回公表

為替レートA

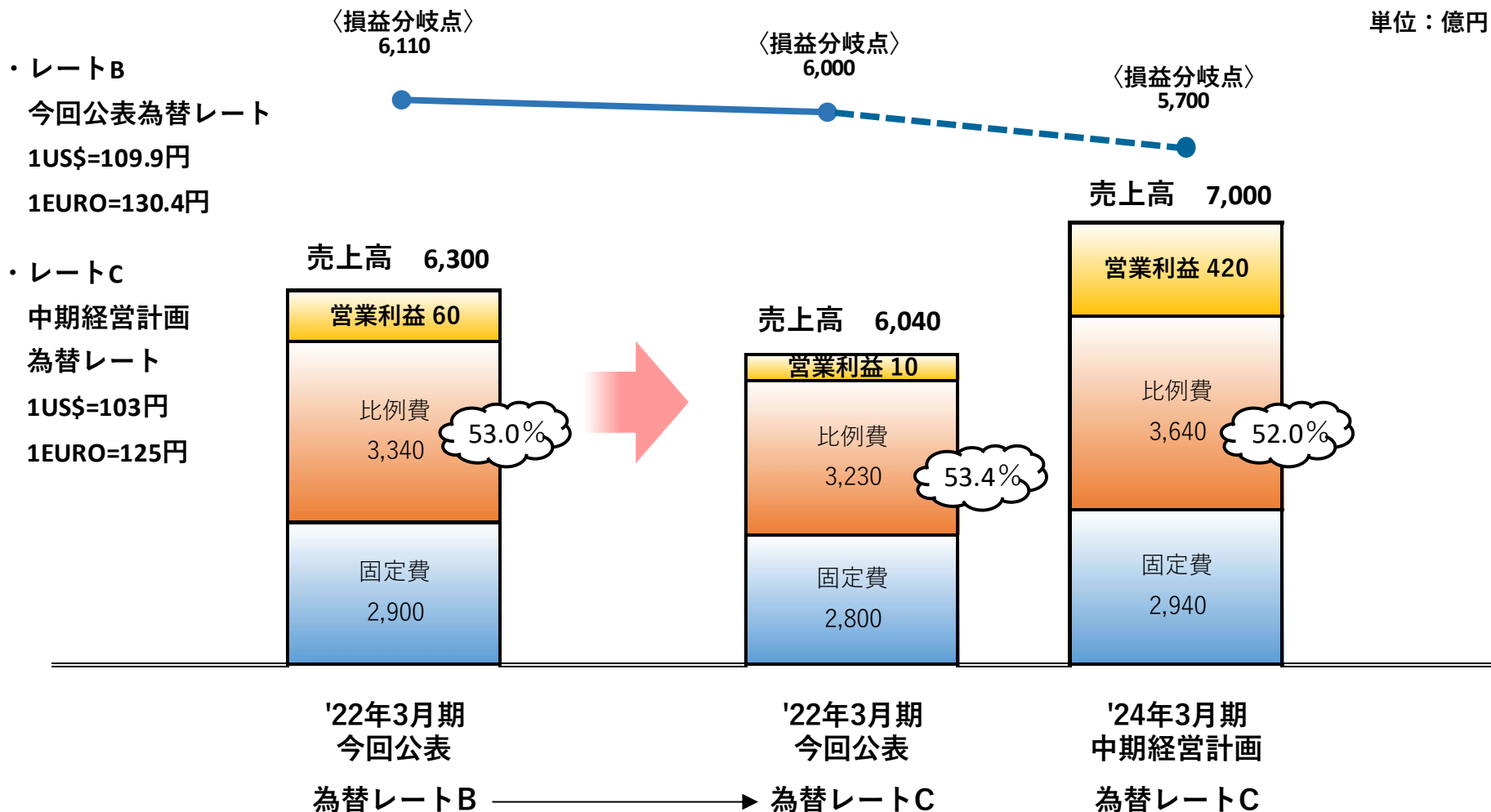
'22年3月期
今回公表

為替レートB

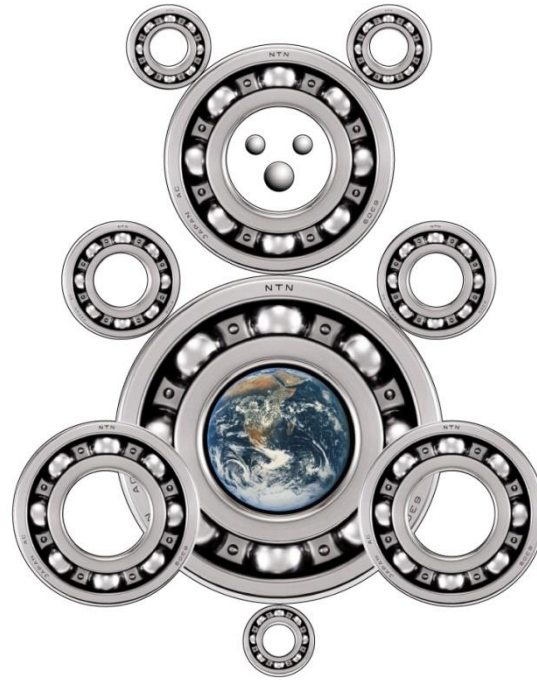
同じレートで比較

12-2. 再生に向けた損益分岐点の引き下げ

'22年3月期 通期 < 今回公表 > vs '24年3月期 通期 < 中期経営計画 >



DRIVE
NTN100



NTN
Make the world **NAMERAKA**

Digitalization, **R**esources, **I**nnovation, **V**ariable cost reformation, **E**fficiency improvement
NTN Transformation for **New 100**years

- 本資料およびプレゼンテーション、引き続き行われる質疑応答の際の回答には、将来の業績見通し、事業戦略が含まれており、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断に基づいております。
- これらの将来的予測に基づく記載や発言は将来の実績を保証するものではなく、実際の結果が製品に対する需要変動、為替変動、金利変動、偶発債務などの様々な要素により、業績見通しとは異なる結果となりうることをご承知おき下さい。

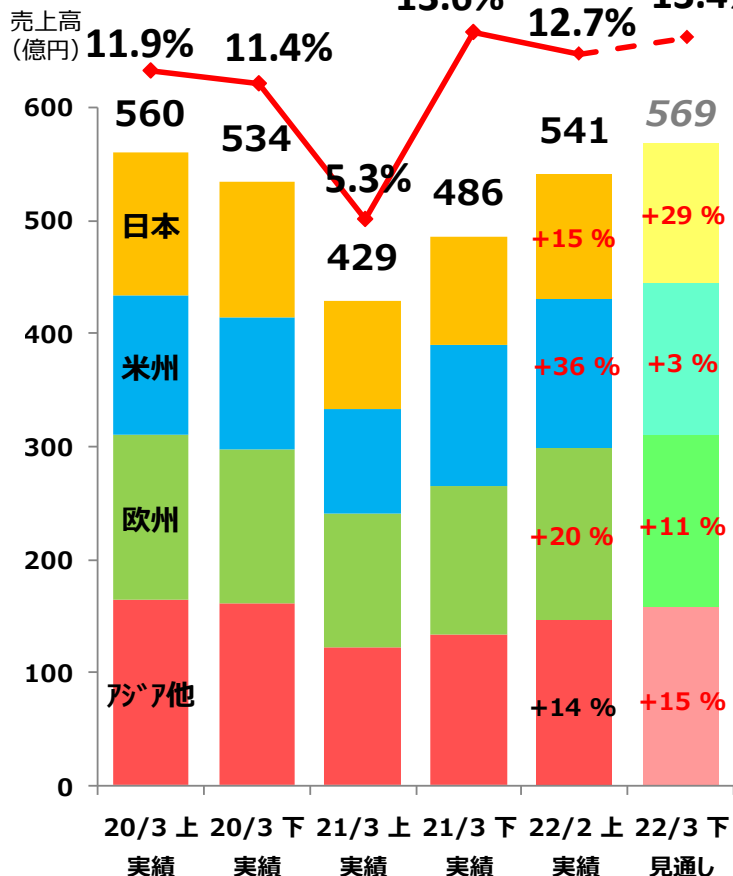
事業形態別販売動向 アフターマーケット事業

<22/3上期実績(前年同期比)>

売上高:541億円(+26.2%) 営業利益:69億円

- 産業機械補修：米州、欧州を中心に各地で需要回復し販売増加
- 自動車補修：米州、欧州、アジア他を中心に各地で需要回復し販売増加

営業利益率



<22/3下期予想：前回公表からの増減コメント>

日本 堅調な需要増加が続き、販売増加を見込む
(前回公表比+13%)

米州 産機補修は北米・中南米が好況
自動車補修は主要代理店及び中南米で増加
(同比+3%)

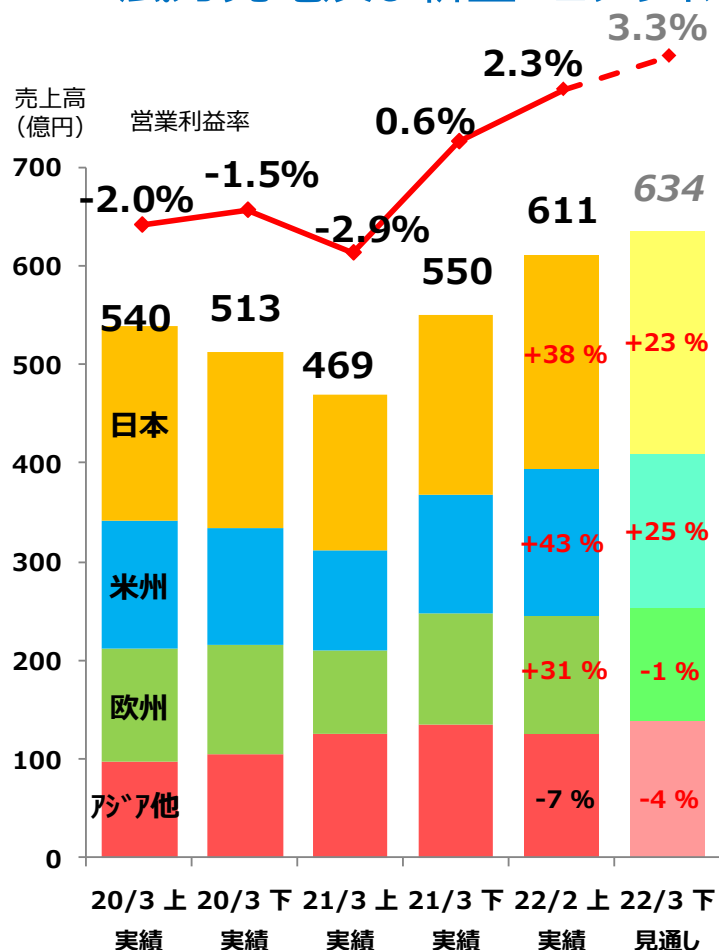
欧州 産機補修はドイツ、イタリア他で堅調
自動車補修は市況活性化で販売増加
(同比+11%)

アジア他 中国は鉄道車両補修等で減少
アジアは自動車補修需要が減少
(同比-2%)

<22/3上期実績(前年同期比)>

売上高:611億円(+30.3%) 営業利益:14億円

- 建設機械、農業機械、変減速機向けで需要が回復し販売増加
- 風力発電及び新型コロナウイルスの影響が継続する鉄道車両向けで販売減少



<22/3下期予想：前回公表からの増減コメント>

日本

不採算品の撤退があるも、建機、変減速機、農機、工作機等の需要が増加
(前回公表比+32%)

米州

建機、農機、変減速機を中心に需要が増加
(同比+26%)

欧州

航空機や鉄道の回復が遅れるも、変減速機等の需要が増加
(同比+7%)

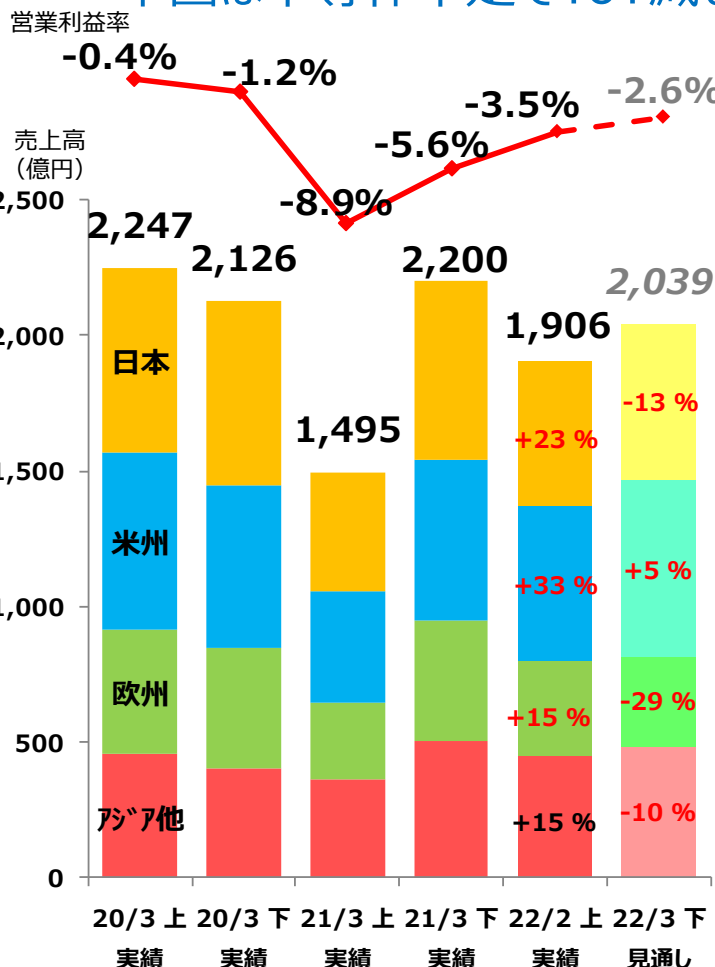
アジア他

中国の建機、農機が増えるも、風力発電、鉄道車両等が減少し販売減少
(同比-9%)

<22/3上期実績(前年同期比)>

売上高:1,906億円(+27.5%),営業利益:-66億円

- 半導体不足の影響もあるが、新型コロナウイルスからの需要回復によりYoY増加
- 中国は半導体不足でYoY減も、日本、米州、欧州、アジアで販売が増加



<22/3下期予想：前回公表からの増減コメント>

日本

(前回公表比-16%)

半導体供給不足の影響が継続
生産回復時期が不透明で販売減少

米州

(同比-10%)

大型SUVやピックアップトラックを優先に回復を期待するも減産影響が残ると想定、販売減少

欧州

(同比-30%)

半導体供給不足の影響を強く受ける顧客が多く、販売減少

アジア他

(同比-6%)

半導体不足に加え、中国は電力不足の影響
アジアはワクチン接種率が低い国のリスクを勘案